

2021年9月発行

茨木御堂 第279号



真宗大谷派



茨木別院

(輪番 高木 文善)

〒567-0817 茨木市別院町3-31
TEL (072) 622-2903
FAX (072) 625-9445

七月に勤修しました暁天講座の講師として大谷大学教授東館紹見先生にご出講いただきました。当日の講演内容を抜粋して掲載させていただきます。

私は大谷大学で歴史のほうを担当しております。今回もその方面からお話していければと思っております。

毎日の生活がないと我々の足場がないということになります。いつも忙しい忙しいと追われまして、どこに立っているのかわからない、右に行つて左に行つて、ああ分からんなんて感じで、今日も一日疲れたなあと感じたら寝ていて毎日が過ぎていきますけど、それが毎日の生活ということであり、まあ世間ということでもあります。でもこの世間ということは大事であります。私たちは何でも自分のものさしで見て、役にたつか意味があるかを全部考えています。自分の一生は自分の一生と割り切つて、それだけという感じです。あとはどうなるか分からない、その代わりに自分が生きている間は自己責任でなんとか全うしなくてはならない、そんな感じでおります。だから自分のものさしでは生きていけないのが世間というところです。にもかかわらず毎日毎日私たちは世間を、何でも私の持っているものさしではかればいいと思っております。

町の中で活動している、そういうことが人間のものさしではかっているのです。私のものさしは、わたしに都合のいいものしか見えないのですから、見てないつもりでもあなたの都合のいいように見えてしまう、そうではないのですかね。(中略)

普段は恥ずかしいことも忘れていることばかり、そういうことがありますね。普段本当に気付いているということは本当になんかと思ひますね。忙しい忙しいとそれを言い訳にして、一番大事なことに向き合うということをお忘れしていると思ひます。本当に光に照らされたときに、自分のものさしが相手を本当に傷つけていたと、いろんな意味で人や物を大事にしていなかったなと知らされてくるわけです。立派な人になるというよりもむしろ自分が全然できなかったなと、本当に知られるということがあるように思ひますね。頭を下げるということは、「ごめんなさい」と言つて頭を下げることはよくあります。それは自分の都合なんです。ものさしなんです。「ごめんなさい」というの

茨木別院関連ホームページ

真宗教団連合ホームページ

茨木別院 ➔ ibarakibetsuin.or.jp

いばらき大谷学園 ➔ ibarakibetsuin.or.jp/kids/

<http://www.shin.gr.jp/>

真宗教団連合

検索

法話カレンダー
九月のことば

にょらい がんしん われひとり じょうじや
如来の願心が 我一人に成就したのが 信心である

がないと本当に「ありがとうございました」というのはないように思いますね。その頭が下がるということがやっぱりに光に出逢う、いのちと光に対して頭が下がるということであります。その頭が下がるということは、量ることの出来ない、いのちといのちからの光、それが大事なことです。それをインドの言葉で表すと、アミタ(阿弥陀)と言います。阿弥陀というのは量ることの出来ない、いのちと光ということ。南無というのは頭が下がるということ。あるいは意味にすると帰命ということ。帰命というのは本当は心の中から頭が下がるということ。自分の都合でしたりしなかったり、自分の利益がありそうな所だけに頭を下げたり、そういうものではなく、今生きている私が照らされることです。その時、おこることが帰命であります。南無の本当の働きのことを如と言います。如というのはそのままということ。如から来て下さるので、仏さんのことを如来と言います。立っていて下さるのも、こちらに来て下さる姿を現しています。如来のことをインドの言葉で仏陀と言います。真理から来て下さった方である、南無阿弥陀仏とは何かというと、この世間の中で私たちも自己中心の毎日の生活の中で、いつでもいのちと光に照らされて頭

が下がるということです。これがお念仏ということ。毎日の生活が無ければ、念仏もお寺もお内仏も何の意味もないですね。だけれどもこの毎日の生活の中で感じる、いのちと光に照らされて頭が下がる、そういう世間にある世間を超えたものをいつでもいただける、世間の生活とはこういった大事な場所だと思っております。そしてこの南無阿弥陀仏に出逢うということが、親鸞聖人の一番の要、人生の要ということ。親鸞聖人のご生涯に聞くことの一番大事なことは、やっぱり毎日の生活とすることがまず大事ということ。だけれども毎日の生活のものさしばかりで生きているということの中に、このものさしを破ってくださるはたらきがあるということが、大事だということ。自分勝手なものさしをなくすることが出来ない私を、いつも照らして破ってくださるはたらきに出会っていたら、また本当に頭が下がるということが一回でも自分の中にあつたならば、その体感が大事だということがわかります。それが世間の中で仏法をいただいて生きるということですよ。それをみなさんと一緒に確かめていかれた人が親鸞聖人だったわけ

南無阿弥陀仏(文責 輪番)

茨木別院 行事ご案内

9月

●教如上人ご命日・同朋会（どうぼうかい）

9月同朋会は休会いたします

●秋季彼岸会 —お勤めと法話—

日 時 20日（月） 午後1時半より
21日（火） 午後3時頃まで
会 場 別院本堂
講 師 宮部 渡氏

●親鸞聖人ご命日・婦人会例会

日 時 28日（火） 午後1時半より
会 場 別院会館
講 師 茨木別院輪番

10月

●教如上人ご命日・同朋会（どうぼうかい）

日 時 5日（火） 午後1時半より
会 場 別院会館
講 師 加藤 恵氏

●親鸞聖人ご命日・婦人会例会

日 時 28日（木） 午後1時半より
会 場 別院会館
講 師 茨木別院輪番



秋 季 彼 岸 会 の ご 案 内

「暑さ寒さも彼岸まで」とよく耳にします、夏の暑さも過ぎて秋の時候となります。
涼しくなったこの時季にお寺へお参りし、お浄土とお念仏の教えをたしかめましょう。

日 時

9月20日 月 ・ 21日 火

●両日とも午後1時半より午後3時頃まで

会 場

茨木別院本堂

講 師

宮 部 渡 氏

[大阪教区 第15組 西稱寺住職]





今年の夏も猛暑や長雨、更に緊急事態宣言が出るなど、なかなか思うように動けない日々が続きましたが、園に来ているお友だちは、朝からプール！ゆっくりお昼寝…元気いっぱい過ごしました。

年長組さんは7月30日にお泊り保育が中止になってしまった代わりに『デイキャンプ』を園内で開催、みんなで踊ったり歌ったり、パンケーキのデコレーションに挑戦したり、更に生演奏と映像を使った人形劇も楽しみました。1日だけでしたが、楽しかった思い出の一つになってくれていると嬉しいです！

まだしばらく不自由な状況は続きますが、子どもたちが安全に楽しく過ごせられるよう感染対策をしっかりと行い、保育に取り組んでまいります。



9月	1日(水)	始業式	10月	7日(木)	芋掘り
	16日(木)	運動会予行練習		8日(金)	芋掘り予備日
	23日(木祝)	運動会		19日(火)～23日(土)	作品展
	24日(金)	運動会予備日		20日(水)～22日(金)	保育参観

※上記の行事予定は変更される場合があります。ご了承ください。



○2号・3号児の見学を随時実施しておりますが感染状況により中止の場合もありますので、見学希望の方は園までお問い合わせください。

電話：072-624-0203

○園庭開放、あそぼう会、誕生会は引き続き中止させていただいています。

茨木別院事務所受付 についてご案内

●事務所受付時間

〔平日〕

九時～十七時

〔土・日・祝日〕

（基本）九時～十七時

＊法務等で事務所が留守になっている時間帯があります。ご用事がある場合には事前にご連絡いただき事務所が開いているかご確認の上ご来院お願いいたします。

●茨木別院事務所

☎〇七二一六二二二九〇三

＊月忌参り、法事等の申込については電話での連絡も受け付けております。

＊須弥壇・合祀納骨の申込については、電話での対応も受け付けておりますが、それぞれ納骨予定日までに申込用紙を茨木別院まで取りに来ていただき提出いただく必要があります。

＊土・日・祝日の対応について、時間帯によって電話がつかない場合がございます。

須弥壇納骨のご案内

本堂須弥壇（ご本尊）の下に納骨壇を設けております、たくさんの方にご利用いただけるようご案内いたします

●冥加金

茨木別院門徒・ご崇敬内門徒

七万円

その他

十万円

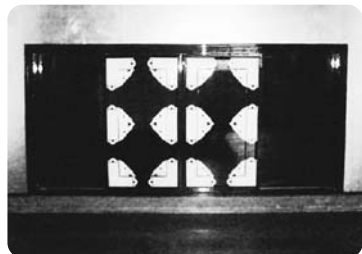
真宗大谷派に所属する
寺院・僧侶・門徒に限
らせていただきます。

＊納骨時の儀式執行は別院が執行します。

＊申込みについては、事前に別院事務所まで
お問い合わせ下さい。

●お問い合わせ先・茨木別院事務所

☎〇七二一六二二二九〇三



合祀墓のご案内

茨木別院墓地敷地内に合祀墓を設けております。

納骨をお考えの方は一度ご連絡下さい。



個別納骨（石版に法名を刻名）

●冥加金

三十二万五千円

納骨冥加金 二十万円
永代管理費 十万円
刻名料 二万五千円

合同納骨

●冥加金

五万円

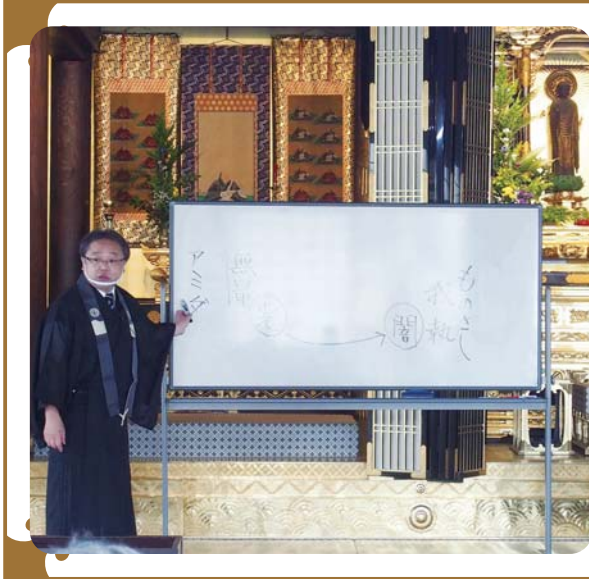
●ご利用は浄土真宗に所属する寺院・僧侶・門徒に限らせていただきます。

暁天講座

七月十九日二十日の午前七時より茨木別院暁天講座を開催しました。

今回、大谷大学より東館紹介見氏が法話の講師として来られました。大学では歴史を教えられているということで「親鸞聖人のご生涯に聞く」という講題で歴史的なお話を交えつつご法話いただきました。

新型コロナウイルスにより様々な行事が中止となっている中、今年も小堀仏具店様よりパンと飲み物の協賛をいただき無事にお勤めすることが出来ました。



敬 弔

ご生前のご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。(敬称略)

記

法名 釋尼智高
俗名 橋本 高江
九十三歳

法名 釋尼慶笑
俗名 上島 笑子
九十六歳

法名 釋尼妙絢
俗名 金原 絢子
八十八歳

法名 願心院釋正見
名 水口 晋
九十一歳

法名 釋謙正
俗名 高橋 謙
七十七歳

法名 釋淨光
名 垣内 光哉
九十一歳

編集後記

九月二十・二十一日と秋季彼岸会を予定しています。このコロナ禍でも何とか法要が勤まっていける事をありがたく思います。

岡崎 康祐

暁天講座のご法話を聴き、学生時代、「『忘』・『忙』は共に『心が亡い』と書く。言い訳に使うのはそもそも心がそこないからだ」と恩師に叱咤を受けた事を思い出しました。

墨林 尚顕

今年は行事が開催される時期に緊急事態宣言が重なることが多く、一部縮小しての行事が続いています。お墓参りも含めお寺への参詣も減ってきています。満席で法要をお迎えできる日がいつになれば来るのでしょうか。

竹内 明人

— 生花・供花・けいこ花 —
株式会社 花 廣

茨木市大手町 一二一八

☎(〇七二)六二二二四〇二